

令和4年

4月9日(土)～6月20日(月)

会期中無休

〈開館時間〉午前9時～午後4時30分

〈入館料〉一般200円、高校生90円、小中学生50円

(土・日曜は市内小中学生無料)

★5月5日(こどもの日)、5月19・20・21日(酒田まつり)は無料

酒田湊の繁栄はここから始まった

河村 瑞賢

ZUIKEN
kawamura

西廻り航路開設二五〇年

西廻り航路って
何がすごいのか?

何を運んだ
航路なの?

瑞賢って
どんな人?

北前船とは
関係があるの?

酒田市立資料館

〒998-0046 山形県酒田市一番町8-16
TEL・FAX0234-24-6544

☑ sakata-city-museum@city.sakata.yamagata.jp



河村瑞賢像(目白山公園)

酒田湊の繁栄はここから始まった 河村瑞賢 西廻り航路開設350年

今から350年前の寛文12年(1672)5月、出羽国の天領(幕府直轄領)で取れた年貢米「御城米」を積んだ御城米船が、酒田湊から江戸へ出発しました。朱の丸の幟を掲げ、日本海を西へと進んだ船は、瀬戸内海を通り大坂を経て、無事7月に江戸に到着しました。これが、後に北前船が行き交う物流の大動脈となる「西廻り航路」の始まりです。

西廻り航路を整備したのは、伊勢国渡会郡東宮村(現在の三重県南伊勢町)出身の河村瑞賢(元和4年～元禄12/1618～99)です。江戸に出て材木商になった瑞賢は、明暦3年(1657)の江戸大火をきっかけに財をなし、その後、幕府の公共事業にも携わる実力者になります。

この頃幕府は、江戸の人口増加による米不足、度重なる火事による財政難に悩まされ、主食であり重要な財源である御城米を、早く安全、確実に江戸まで運ぶ必要に迫られていました。そこで寛文10年(1670)、陸奥国の御城米の海上輸送を瑞賢に命じます。瑞賢は翌年、荒浜(宮城県)と江戸をつないだ「東廻り航路」による輸送に成功し、さらに出羽国の御城米を運ぶため、西廻り航路開設という大事業を任されたのです。

江戸時代の日本の海運に変革をもたらし、酒田湊を大きな繁栄へと導いた西廻り航路がどのように整備されたのか、瑞賢の動向や庄内藩の対応を記録した古文書などからひもとき、瑞賢の功績を紹介します。現在は日和山公園がある場所に瑞賢が造った御米置場、通称「瑞賢庫^{ずいけんぐら}」の資料も展示します。



明治中期の日和山公園。松で囲まれた場所が瑞賢庫(御米置場)の跡地。

展示協力 南伊勢町教育委員会、大本山 建長寺、東京都立中央図書館特別文庫室、(公財)本間美術館、酒田市立光丘文庫、酒田市総務課



日の丸船印(御城米船の幟)
幕府が御城米船に立てさせた日の丸(朱の丸)の幟。この幟は酒田市内の旧家が所有し、酒田湊から御城米を運んだ船で使われたものと考えられます。

展示関連イベント

■資料館調査員による展示解説

日時/5月14日(土)

①午前10時～

②午後1時～(各回1時間程度)

会場/酒田市立資料館1階企画展示室

料金/無料(入館料別途必要)

定員/各回10名

※駐車場に限りがありますので、申し込み時にお問い合わせください。

■瑞賢庫跡地(日和山公園)を歩く

日時/5月28日(土)午前10時～11時30分

会場/日和山公園

内容/資料館調査員が現地地で解説します。詳しくはお問い合わせください。

料金/無料

定員/20人

●どちらも4月9日から受け付けます。

(お問い合わせ)TEL:0234-24-6544

酒田市立資料館



〈アクセス〉

◆JR酒田駅から庄内交通バス(約9分)「大通り商店街」下車 徒歩1分

◆庄内空港からシャトルバス(約30分)「中町」下車徒歩5分

◆日本海東北自動車道「酒田中央IC」より約10分(駐車場あり)

次回企画展予告

庄内の 農耕の風景(仮)

令和4年6月25日(土)
～9月5日(月)